

政令市新潟を代表するシンボル空間

テアトル萬代

“萬代橋”を中心として「港」と「大河」そして「都心軸」が出会う場所

例えばパリのカフェで街行く人々を眺める。そこは街の小さな劇場空間である。萬代エリアで新潟市民の織り成す様々なドラマを眺める。新潟のいいところがそこにいれば味わえる。そんな場所が【テアトル萬代】なのです。

- 市民が“新潟っていいよね”と思える場所・市民の人生の大切な舞台として原風景となる場所 (例えば) 小学生の写生大会や一世一代のプロポーズをする場所
- 来街者が“新潟といえよ”って思う場所 (例えば) 観光ガイドブックの表紙



1 萬代橋を中心として両岸に“気になる”場所をつくる

まずは市がシンボル空間形成の起爆剤となる公共空間整備を。国交省跡地や既存の他門川公園を種地として活用できる萬代橋の南側エリアから「テアトル萬代」を創り始める。

- ★ 萬代橋
- ★ シンボル空間を見渡せる“日和山”
- ★ 人情が河にあふれ出る“新他門川公園”
- ★ 川岸の小さなイベント空間

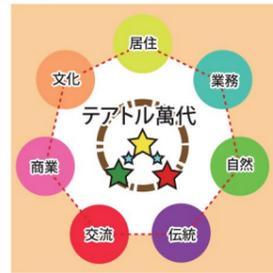


まちの劇場空間を訪れて新潟を体験し、再発見する

2 周辺のまちの“いいところ”とつないで絆を強める

新拠点群をきっかけに周辺のまちがそれぞれの特色を活かして連携し、周りの“いいところ”が河沿いに集まっていく。一方で“テアトル萬代”に集まる元気が益々周りを元気にする。

- ・既存のまちのにぎわい＝劇場空間のホワイエ
- ・デッキネットワークやLRTの駅からのアプローチを設ける
- ・歩道拡幅+街路樹により信濃川沿いの緑空間をまちに引込む

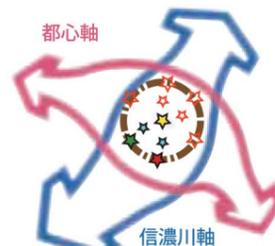


周辺のまちを巻き込んで交流が活発化する

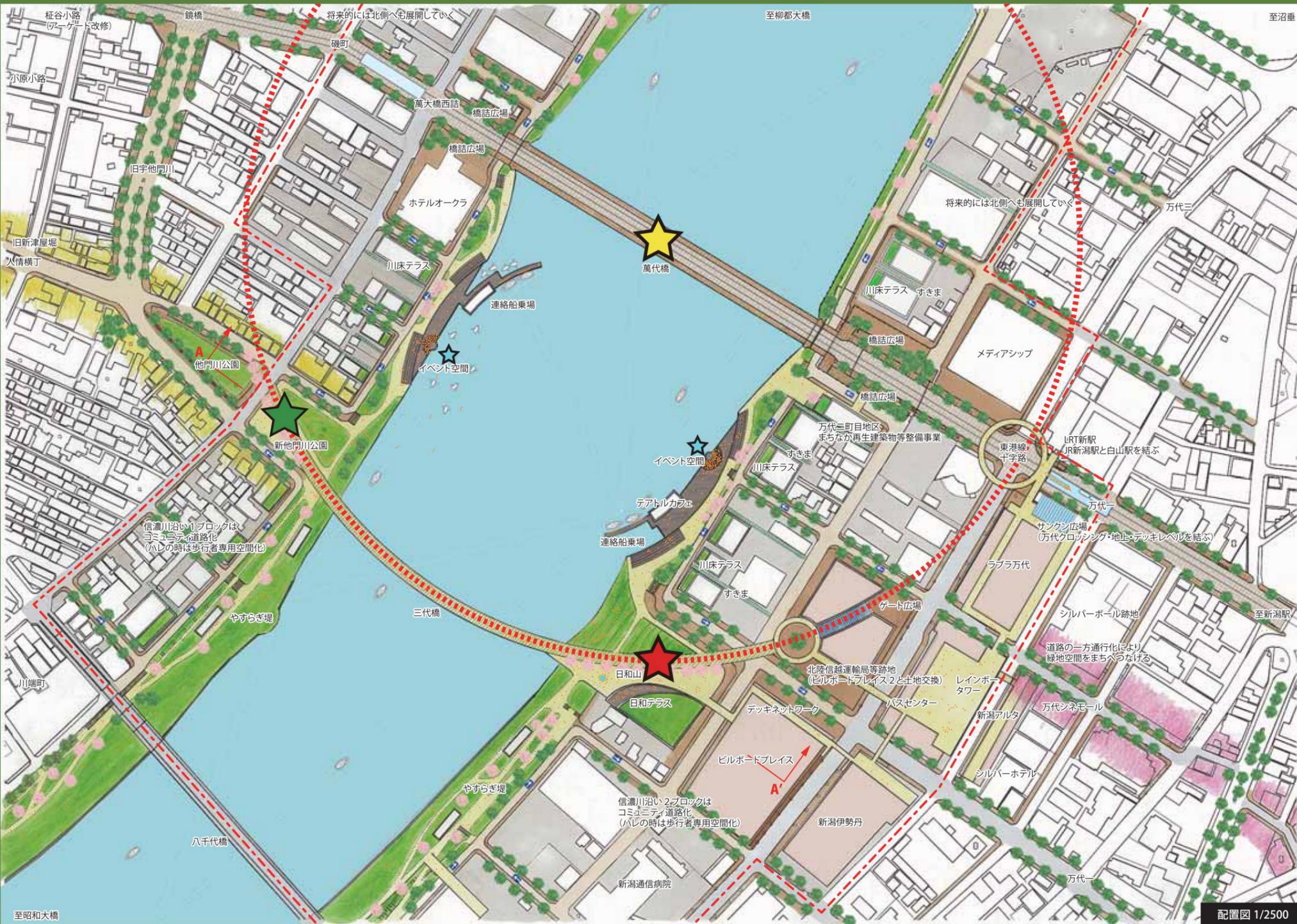
3 長い時間をかけてシンボル空間を育てていく

愛着をもった市民の自発的な活動により、シンボル空間を皆で大事に育てていく。

- ・周辺の街並みを萬代橋や信濃川の景の「舞台背景」として設ける
- ・「テアトル萬代推進協議会」でまちの将来を話し合い、協力して具体化していく
- ・まちづくり会社を設立し、テアトル萬代の運営・管理を行う
- ・両岸を結ぶ歩道橋“三代橋”の整備
- ・機会を捉えて萬代橋の北側にもテアトル萬代を形成し、シンボル空間を強化する



ここに住み続けたいという誇りをもって風景創りに参加する



配置図 1/2500

★新他門川公園

本町通と新津屋小路堀の交差するあたりでは毎日船で運ばれた野菜や魚などを売る朝市が開かれていたという。信濃川沿いに新他門川公園を整備することで古町のにぎわいを川沿いに展開、たとえばイベント広場で朝市の風景を現代に再生する。

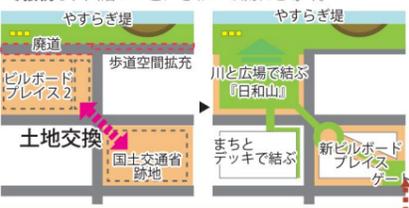


- 整備方針
古町の人情横丁からやすらぎへとつながる緑豊かな空間を創出。
・古町商店街とやすらぎ堤との回遊性を高め、日常的に信濃川を身近に感じるまちへ。
※公園から川へのダイレクトなアクセスを実現するため川沿いの道路を一部廃道する

○日和山とは
信濃川から海へ出る際、小高い“日和山”の上にあった物見櫓から安全を確認したという。人々の暮らしを見守ってきたシンボルであるこの山を新潟市民の新たな拠点として再生する。



- 整備方針
・ビルボードプレイス2と北陸信越運輸局等跡地の土地交換により信濃川に面した公共空間整備用地を確保する。
・川沿いの道路廃道によって緩傾斜でやすらぎ堤から連続する広場空間をつくる。
・万代地区の商業施設群とやすらぎ堤を既存デッキレベルで接続し、川沿いへとにぎわいの流れを導く。



★ひより日和山

- 日和山の機能イメージ
・まちづくり会社「テアトル萬代プロダクション」の活動拠点
・子育て・介護支援センター
・ボランティア活動拠点
・大学、行政のサテライト
・ワークショップスペース
・ホール

人情力

にぎわい力